

免責事項：本文書は情報提供のみを目的としています。以下の事項は、マテリアルやコード、機能を提供することをコミットメント（確約）するものではないため、購買決定を行う際の判断材料になさらないでください。本書に記載されている機能の開発、リリース、および時期については、弊社の裁量により決定されます。

# Oracle Business Intelligence Foundation Suite 11g 新機能

## 完全性と統合性

### おもな新機能

- 視覚化推奨エンジン
- 新しいパフォーマンス・タイルとウォーターフォールの視覚表現
- Oracle Endeca Information Discovery のサポート
- Apache Hadoop データソースへのアクセス
- Oracle BI Summary Advisor の強化
- Oracle BI との Oracle Hyperion Smart View for Office の統合

*Oracle Business Intelligence Foundation Suite 11g* は、企業レポート作成、ダッシュボード、非定型分析、多次元 OLAP、スコアカード、予測分析を含む、包括的なビジネス・インテリジェンス機能を統合プラットフォーム上で提供します。*Oracle Business Intelligence Foundation Suite 11g* は、卓越したパフォーマンスを発揮するように設計された業界初のエンジニアド・インメモリ分析マシン、*Oracle Exalytics* のコア・コンポーネントでもあります。

## 新機能の概要

*Oracle Business Intelligence Foundation Suite 11g* の新リリースであるリリース 11.1.1.7.0 は、新機能の追加、パフォーマンスの向上、エンドユーザー・エクスペリエンスの強化を図るための拡張機能をスイート全体で 200 以上搭載しています。以降の項では、*Oracle Business Intelligence Foundation Suite* のこのリリースのおもな新機能について説明します。

## エンタープライズ・アプリケーションの視覚化とユーザー・エクスペリエンスの強化機能

データ駆動型の視覚化により、ユーザーは手元にある情報を従来とは違った新しい方法で吸収、理解することができます。このリリースでは、*Oracle Business Intelligence* で新しい強力な視覚表現を利用できるようになりました。

- **視覚表現の推奨：** 視覚表現を作成する際に“推奨視覚表現”機能を選択すると、ユーザー・データと分析の意図に基づく視覚表現が推奨されます。この機能により、手元のデータに合わせて具体的にカスタマイズしたデータ視覚表現を作成し、アーリストの視点からデータ駆動型の知見を得るまでの期間を短縮します。

### おもな利点

- 構造化データと非構造化データを分析することで、イノベーションを推進
- 強化した視覚表現、EPM アプリケーション、分析アプリケーション、モバイル BI で分析を最適化
- エンジニアド・システム、テクノロジー・スタックによる統合で IT を簡素化

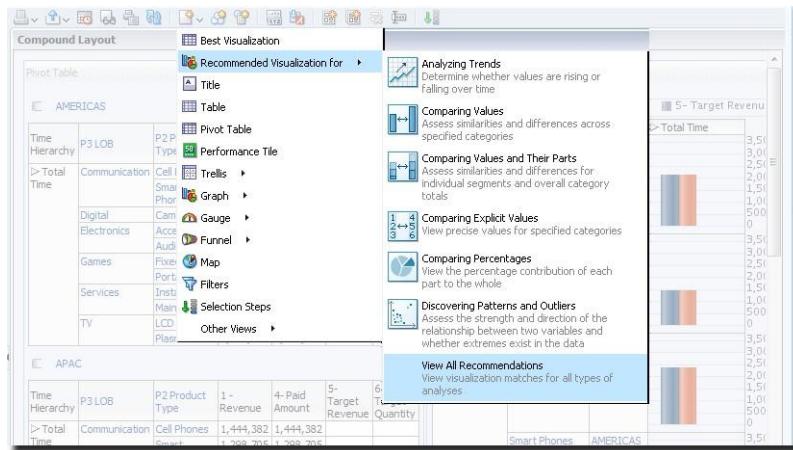


図1：推奨視覚表現メニュー

- パフォーマンス・タイル：**パフォーマンス・タイルは、視覚的に目立つ方法で単一の集計情報を表示します。ダッシュボード上にメトリックまたは一連のメトリックを効果的に表示して目立たせることができます。ユーザーはオプションのリストからパフォーマンス・タイルを選択して、スタイル、サイズ、条件付きフォーマットの適用などのカスタマイズを行うことができます。
- ウォーターフォール：**ウォーターフォール・グラフを使用すると、初期価格が各種割引とオプションによってどのように影響されるのかを示すことで、系列の各値が徐々に全体に影響を及ぼしていく様を確認できます。ウォーターフォール・グラフは、価格漏れの特定に役立つ価格分析など、多くのアプリケーションでよく使用されています。
- マップ・ビュー：**ラインのフォーマット機能をサポートして、1つのメジャーを基にラインの色をさまざまに変更できます。また、2つ目のメジャーでラインの幅を変えることも可能です。たとえば、航空路線の場合、飛行回数を基に色を付け、座席あたりの平均収益を基に幅を設定できます。
- 100 パーセントの積み重ねグラフ：**棒グラフと面積グラフの両方にサブタイプ、「100% Stacked」が追加されました。このグラフでは、値をパーセントで表します。0~100 パーセントの値でデータが正規化されるため、系列とグループの値を容易に比較できます。

## 製品

- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition
- Oracle Scorecard and Strategy Management
- Oracle Essbase
- Oracle Essbase Analytics Link
- Oracle Business Intelligence Mobile

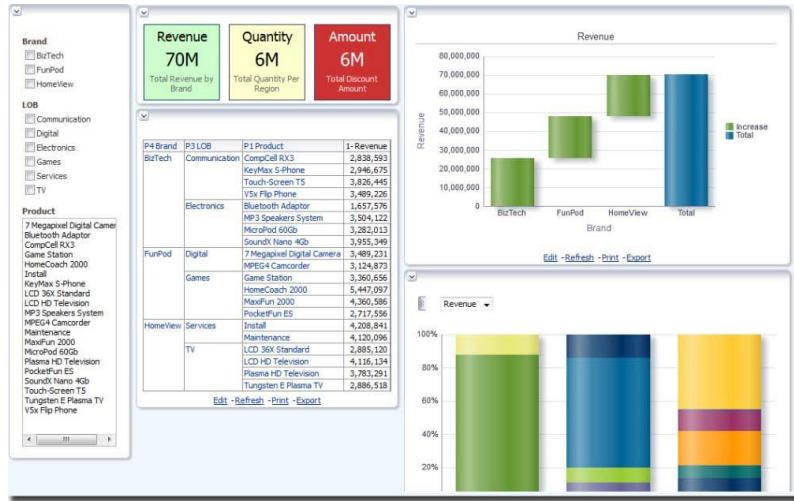


図2：ダッシュボード内の新しい比較表現の例

- **Null 表示機能**：分析には、null 行/列を含む疎データがあることがほとんどです。分析レベルで選択可能なこの新しいオプションを使用すると、疎データを表示できます。表示レベルでの無効化が可能なため、同じ分析の異なるビューでデータをどのように表示するかを柔軟、便利にコントロールできます。
- **ブレッドクラム**：名前が示すように、ブレッドクラムはナビゲーションの一助となって、アプリケーション内の現在位置だけでなく、現在位置にたどりつくまでのアプリケーション内のパスも把握できるようにします。このナビゲーション支援機能はページ下部にあり、ユーザーはブレッドクラムのどの部分でもクリックできます。
- **トレリス・ビュー・アクション**：アクション・リンクは、視覚表現内およびダッシュボード内のコンテキスト機能として強力な力を発揮します。Oracle Business Intelligence Enterprise Edition (Oracle BI EE) で使用できる高密度なトレリス・ビューでは、シンプル・トレリス・ビューと詳細トレリス・ビューの両方でアクション・リンクがサポートされるようになりました。また、トレリス・ビューの凡例と軸ラベルでも使用できます。
- **ヘッダー固定機能**：表、ピボット、詳細トレリス・ビューの新オプション "Freeze Column" を使用すると、ユーザーがデータセットを下にスクロールしても、ヘッダーはビュー上部に固定されたままになります。この機能はビューのプロパティ・パネルから、特定のビューに対してオンまたはオフに切り替えることができます。Oracle BI Mobile HD アプリでは、2 本指のスワイプ操作で使用できます。
- **Oracle Endeca MDEX による検索**：Oracle Endeca Information Discovery Server と Oracle BI EE の統合により全文検索が可能になり、「Type」、「Name」、「Path」、「Created By」などの属性で検索結果をフィルタリングするオプションを使って、目的の答えを素早く得られます。

また、この領域には、合計からアクション・リンクを追加して、階層構造のプロンプトで変数を設定できる「Adding to Favorites」など、他にも複数の拡張機能があります。ダウンロード、階層内での合計の配置コントロール、ダッシュボードの新しいデフォルトのスタイル、Oracle Enterprise Performance Management Systemとの統合など、新しいBI デスクトップ・ツールも利用できます。

## 関連製品

- Oracle Exalytics
- Oracle BI Applications
- Oracle Endeca Information Discovery
- Oracle Real-Time Decisions
- Oracle Planning, Budgeting, and Forecasting
- Oracle Profitability and Cost Management
- Oracle Financial Close and Reporting

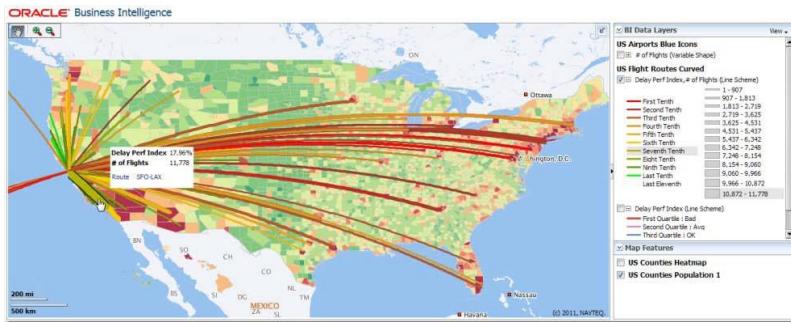


図3：ライン・フォーマットを使ったマップ・ビューとダッシュボードの機能テーマ

## Oracle BI Mobile HD の拡張機能

Oracle Business Intelligence Foundation Suite の新リリースでは、モバイル機器のエンドユーザー向けの多様な拡張機能もご用意しています。ユーザーは、新しい Oracle Business Intelligence Foundation Suite リリースの視覚表現最適化機能を利用でき、モバイルフレンドリーなジェスチャー操作機能、コンテンツを管理、表示するための拡張機能のすべてを、セキュリティの低下を招くことなく利用できます。

- **ビューの最大化**：タブレットでデータ密度の高いビューを扱う場合、あるいはデータを全画面モードで表示する必要がある場合は、ビューをダブルタップして最大化できます。
- **新しい視覚表現機能のサポート**：このリリースで追加された、パフォーマンス・タイル、100 パーセントの積み重ねグラフ、ウォーターフォールなどの新しい視覚表現機能はすべて、モバイル・アプリで使用できます。さらに、タップ、スワイプ、ダブルタップ、タップ&ホールドなどのタッチ操作も使えます。たとえば、表、ピボット、またはトレリス・ビューの行をヘッダーの固定位置までスクロールする場合は、指1本のドラッグ操作を使用できます。
- **Oracle BI Publisher のモバイル強化機能**：Oracle BI Publisher のレポートを開いて、ダッシュボードで表示することができます。Oracle BI Publisher のコンテンツは完全対話型で、プロンプトがサポートされています。また、Oracle BI Publisher のコンテンツを保存して、ローカル（オフライン）で利用できます。
- **セキュリティ・ツールキット**：Oracle BI Mobile Security Toolkit は、モバイル・オペレーティング・システムや Oracle BI Mobile アプリケーション自体が提供するモバイル・デバイス・セキュリティよりも高いレベルを求めるお客様向けのソリューションを提供します。Oracle BI Mobile Security Toolkit は、署名も認証もされていないバージョンの Oracle BI Mobile HD アプリケーションを再パッケージ化したものです。お客様が選んだサード・パーティのモバイル・デバイス管理 (MDM) セキュリティ・ソリューションと組み合わせて、企業の署名を付加し、好みのモバイル・アプリケーション配信メカニズムの一部として配信できます。

## Oracle BI EE サーバーの強化機能

多様なサーバー強化機能は、新しい Oracle Business Intelligence リリースの必須コンポーネントです。Oracle Exalytics In-Memory Machine で実行するように最適化された新しい Oracle Business Intelligence Foundation Suite は、統合プラットフォームで稼働する包括的なソリューションとして卓越したパフォーマンスを発揮するように設計されています。

- **Hadoop との統合**：複数のクラスタにまたがるビッグ・データの処理に必要な MapReduce プログラムを作成する場合、Hadoop のフレームワークがよく使用されます。Oracle Business Intelligence Foundation Suite の最新リリースでは、Hive ODBC インタフェースを介した Hadoop へのアクセスがサポートされたため、MapReduce プログラムを作成する必要がなくなります。Oracle BI Server はコマンドを直接 Hive に発行して、Hadoop データソースに問合せを行ってデータを取得します。
- **Model Checker**：メタデータ・リポジトリの問題は、Oracle BI Summary Advisor と Aggregate Persistence Engine の有効性と達成に悪影響を及ぼす可能性があります。Model Checker は、メタデータ・リポジトリをオンライン・モードでチェックでき、要修正と判断した潜在的な問題にフラグを付けることができます。問合せパラレル処理を利用してそのパフォーマンスを最適化します。また、Model Checker は validatepd ユーティリティを使って、コマンドラインからも実行できます。この方法は、ユーザーの自動化計画に Model Checker を統合する場合に便利です。
- **バイナリ・ラージ・オブジェクト・データ**：バイナリ・ラージ・オブジェクト（通常、BLOB と言います）のサポートにより、レポートのデータ、マップ、グラフと一緒にイメージを表示できます。従業員のデータと共に従業員のイメージを表示したり、製品売上データの横に製品のイメージを表示したり、サプライヤの記録の横にサプライヤのロゴを並べたりするなど、データを真のマルチメディア形式で提示することが可能になります。
- **IBM WebSphere Application Server のサポート**：IBM WebSphere Application Server は、Java ベースのアプリケーションをホストする Web アプリケーション・サーバーです。Oracle Business Intelligence では、Linux 64 ビット版オペレーティング・システム上の WebSphere バージョン 7 がサポートされるようになりました（認定バージョンの詳細については、Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition のドキュメントのシステム要件とサポート対象プラットフォームを参照してください）。ユーザーは Oracle BI の構成アシスタントを使って、Oracle Business Intelligence Foundation Suite を WebSphere 上にデプロイできます。
- **Oracle Essbase の統合**：このリリースの複数の領域で Oracle Essbase と Oracle Business Intelligence Foundation Suite の統合が強化されています。Oracle BI と Essbase は単一のインストーラでインストールでき、共通の Oracle Fusion Middleware セキュリティ・モデルを共有でき、Oracle Enterprise Manager を介して管理できます。また、Oracle BI Server と Oracle Essbase 間のこの統合では、ライトバック、Aggregate Persistence ターゲットとしての Essbase の機能などもサポートします。

この領域の強化機能には、マルチソース・セッションの変数のサポート、Oracle Database と Oracle TimesTen での NUMERIC データ型のサポート、Oracle BI Server と Oracle OLAP 間のサーブレット通信のサポートなどもあります。

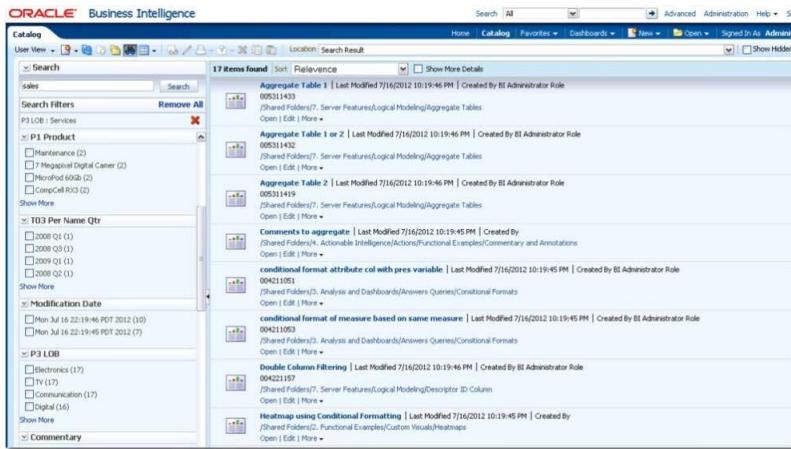


図4：Oracle BIとOracle Endeca Information Discoveryの検索機能の統合

- エンタープライズ・レポートの作成と印刷の強化機能**：Oracle BI Publisherへのダッシュボードのエクスポートダッシュボード全体を選択して Oracle BI Publisher 形式レイアウトにエクスポートすることができます。基盤となるデータ・モデルおよび Oracle BI Publisher のレポートはバックグラウンドで自動的に作成され、サポートされているビューとスタイルも同様です。また、ユーザーはダッシュボード全体をサポート対象の Microsoft Office 形式にエクスポートできます。
- ダッシュボードとダッシュボード・コンテンツのエクスポート**：Microsoft Excel と PowerPoint のネイティブ形式 (Microsoft Office 2003、2007 以上の形式をサポート) でレポートをエクスポートすることができます。同様に、ダッシュボードとそのページをサポート対象の Microsoft Office の形式にエクスポートできます。ダッシュボード全体をエクスポートすると、個々のダッシュボード・ページが別々の Microsoft Excel ワークシートとして、生成されたエクスポートで表示されます。
- セマンティック・レイヤーへのレポート・アクセス権**：ユーザーは、Oracle BI Server に対して直接実行される "サブジェクト領域レポート" を作成できるので、追加の Oracle BI Publisher データ・モデルを作成する必要がありません。生成された論理 SQL は、Oracle BI Server に対して直接実行されます。
- テンプレート・ベースのダッシュボードの印刷**：ダッシュボードに関連付けられたテンプレートでは印刷オプションが生成されています。その複数のテンプレートの中からいざれかを適宜選択することで、忠実度の高いダッシュボードの出力を得ることができます。
- エンタープライズ・レポートのデータソースの強化機能**：Oracle BI Publisher では、Oracle Endeca Information Discovery データ・ストアへの接続をサポートします。EQL (Endeca Query Language) で問合せを定義して、Oracle Endeca Server からデータを取得し、Oracle BI Publisher レポートで使用できるようになりました。さらに、ローカル保存の、または共有された XML ファイルや CSV ファイルをデータソースとして利用できます。プライベート ODBC または JDBC のデータソース接続を作成してデータセットで使用することも可能です。その結果、個々の接続を作成する管理者の負担が軽減され、セルフサービス・レポートの作成が容易になります。ただし、管理者は引き続き、これらのプライベート・データソース接続を必要に応じて表示、変更、削除することができます。また、ユーザーは MDX (マルチディメンション式、OLAP データベースの問合せ言語) 問合せを、キューブのデータを含んだ多次元セ

ル・セットを返す Oracle Essbase キューブなどの OLAP データソースに対して使用できます。さらに、MDX 問合せを手動で入力することも、MDX Query Builder を使って問合せを作成することも可能な柔軟性を得られます。

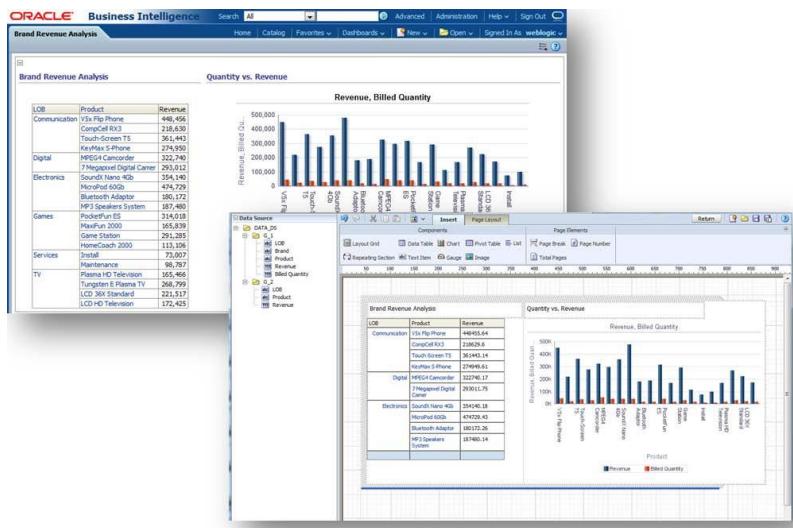


図4: Oracle BI Publisherレイアウトへのダッシュボードのエクスポート

(自動モデルが機能し、レポートが作成された状態)

### Office とその他の統合強化機能

このリリースでは、Oracle BI と Oracle Hyperion Smart View for Office との統合が大幅に強化されています。既存の Oracle BI Add-in for Microsoft Office は引き続きサポートされますが、Office との統合には、Oracle Hyperion Smart View を主要アプリケーションとして使用することをお勧めします。

- **Oracle Hyperion Smart View の Oracle BI プrezentation・カタログ:** Oracle Hyperion Smart View の最新リリースでは、Oracle BI ダッシュボードのページとレポートのプロンプトをサポートしています。シングル・サインオンのサポートにより、セキュリティが強化されました。
- **Oracle Hyperion Smart View での Oracle BI ビューの作成:** Oracle Hyperion Smart View アドインを使用すると、Answers ビューを Excel から直接作成できます。作成後、このビューを Excel に保存することも、カタログに Answers ビューとして保存することもできます。Oracle Hyperion Smart View の Oracle BI データは、Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Disclosure Management などの他の Oracle Hyperion Smart View プロバイダからもアクセスできます。

これまでの説明を総括すると、Oracle Business Intelligence Foundation Suite の最新リリースは、エンタープライズ・レポート、ダッシュボード、非定型分析、スコアカード、what-if シナリオ分析、予測分析を高信頼の統合プラットフォーム上で提供する包括的なソリューションです。ユーザーは、データ品質やセキュリティを損なうことなく、世界のどこからでもモバイル機器で分析の威力を活用することもできます。

## お問い合わせ

Oracle Business Intelligence Foundationについて、詳しくは oracle.com を参照するか、+1.800.ORACLE1 でオラクルの担当者にお問い合わせください。

 | Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、記載内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による默示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての默示的な保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle および Java は Oracle およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標はライセンスに基づいて使用される SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴおよび AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。0113

**Hardware and Software, Engineered to Work Together**